

平成30年度政策評価部会の審議結果について

平成31年3月19日
政策評価部会

1 平成30年度政策評価・施策評価の審議結果

(1) 審議対象

平成30年度の政策評価・施策評価については、平成30年5月15日付けで、21政策56施策に係る県の評価原案について、知事から諮問がなされた。

○県の評価原案（政策・施策の成果）

	評価区分（※）毎の政策（施策）数				合計
	宮城の将来ビジョンの体系		宮城県震災復興計画の体系		
政策評価	・順調：なし ・概ね順調：10政策 ・やや遅れている：4政策 ・遅れている：なし	計 14政策	・順調：なし ・概ね順調：7政策 ・やや遅れている：なし ・遅れている：なし	計 7政策	21政策
施策評価	・順調：1施策 ・概ね順調：21施策 ・やや遅れている：11施策 ・遅れている：なし	計 33施策	・順調：なし ・概ね順調：21施策 ・やや遅れている：2施策 ・遅れている：なし	計 23施策	56施策

※評価区分（「順調」・「概ね順調」・「やや遅れている」・「遅れている」の4区分）

当部会では、3つの分科会に分かれて、延べ9回の分科会を開催し、調査審議を行い、県の評価原案（政策・施策の成果）の妥当性について判定（3区分）を行った。

あわせて、「政策・施策の成果」及び「政策・施策を推進する上での課題と対応方針」に対し、意見を付した。

判定結果及び主な意見は、次の(2)及び(3)のとおりである。

(2) 判定結果等

【宮城の将来ビジョンの体系】

評価項目		判定及び意見		
政策 評価	政策の成果	適切 6	概ね適切 6	要検討 2
	政策を推進する上での課題と対応方針	意見を付した政策数 1 3		
施策 評価	施策の成果	適切 1 8	概ね適切 9	要検討 6
	施策を推進する上での課題と対応方針	意見を付した施策数 2 6		

【宮城県震災復興計画の体系】

評価項目		判定及び意見		
政策 評価	政策の成果	適切 1	概ね適切 5	要検討 1
	政策を推進する上での課題と対応方針	意見を付した政策数 5		
施策 評価	施策の成果	適切 1 1	概ね適切 1 1	要検討 1
	施策を推進する上での課題と対応方針	意見を付した施策数 1 0		

(参考) 要検討の政策・施策

【宮城の将来ビジョンの体系】

- 政策 6 子どもを生き育てやすい環境づくり
- 政策 6－施策 13 次代を担う子どもを安心して生き育てることができる環境づくり
- 政策 6－施策 14 家庭・地域・学校の協働による子どもの健全な育成
- 政策 7 将来の宮城を担う子どもの教育環境づくり
- 政策 7－施策 15 着実な学力向上と希望する進路の実現
- 政策 7－施策 16 豊かな心と健やかな体の育成
- 政策 8－施策 23 生涯学習社会の確立とスポーツ・文化芸術の振興
- 政策10－施策 26 外国人も活躍できる地域づくり

【宮城県震災復興計画の体系】

- 政策 3 「富県宮城の実現」に向けた経済基盤の再構築
- 政策 7－施策 1 防災機能の再構築

(3) 政策評価・施策評価に付した主な意見

① 政策・施策の成果について

イ 県民に分かりやすい評価

政策評価・施策評価は、県民への説明責任を果たすことが重要な目的の一つであるため、評価を行うに当たっては、政策で取り組む内容と政策を構成する施策との関係、施策の方向と目標指標、施策を構成する事業との関係、各分野における県や市町村、関係機関との関係、県の果たすべき役割などにも留意し、評価の理由が県民に十分理解できるように示す必要がある。

ロ 目標指標の在り方

目標指標は、施策に期待される成果の発現の状態を客観的に測るメルクマールである。しかし、目標指標の中には、調査に時間を要し実績値が未確定であるものや、調査が実施されなかったこと等により実績値の把握が困難であるもの、施策の成果を評価するには十分ではないものが見受けられる。

目標指標による成果の把握に当たっては、迅速に実績値を把握することはもとより、実績値を把握することが困難な場合には、目標指標を補完するデータや関連する統計データの活用、事業の実績等により、成果を把握することが必要である。

また、設定されている目標指標の実績値のみでは、施策の成果を十分に把握することが難しい場合や、既に目標値に達している指標については、改めて取組の進捗状況が的確に反映される目標指標の検討が必要である。

また、定量的な目標指標については目標の達成により、どのような効果があったか、それが施策の推進にどう貢献したのかを併せて記載するなど、施策の成果を具体的に分かりやすく示す必要がある。

② 政策・施策を推進する上での課題と対応方針について

政策・施策評価は、政策・施策を企画立案・実施した後、その実績を評価し、次なる企画立案に反映させるPDCAサイクルの一翼を担うものであり、成果を重視する県政運営の推進に大きな役割を果たしている。このPDCAサイクルの実効性を向上させるためには、政策・施策を推進する上での課題を的確に把握するとともに、その解決に向けた効果的な対応方針を示すことが重要である。

政策・施策を推進する上での課題と対応方針については、政策で取り組む内容や施策の方向等の体系に沿って、目標指標の達成状況、県民意識、社会経済情勢、事業の成果及び政策・施策の評価等を踏まえ、十分な現状分析を行った上で、長期的・短期的それぞれの視点から、的確な課題の把握に努めるとともに、その課題を克服し施策を推進するための対応方針についても長期的、短期的な視点から具体的に示すことが必要である。

特に、目標値と実績値の乖離が大きい目標指標等については、その原因を分析して課題として明示し、より具体的な対応方針を示すことが必要である。

2 部会審議の経過等

(1) 経過

- ・平成30年 5月15日 諮問
- ・平成30年 5月21日 第1回政策評価部会 分科会の進め方、審議・判定方法等
- ・平成30年 5月28日～6月15日 分科会開催
 - 第1分科会－7政策・19施策の調査審議／3回開催
 - 第2分科会－6政策・19施策の調査審議／3回開催
 - 第3分科会－8政策・18施策の調査審議／3回開催
- ・平成30年 7月 3日 第2回政策評価部会 答申とりまとめ
- ・平成30年 8月 6日 答申

(2) 政策評価部会分科会の審議状況

	宮城の将来ビジョンの体系						宮城県震災復興計画の体系					
	政策			施策			政策			施策		
	対面 審議	書面 審議	計	対面 審議	書面 審議	計	対面 審議	書面 審議	計	対面 審議	書面 審議	計
第1分科会	5	0	5	11	1	12	2	0	2	3	4	7
第2分科会	3	1	4	11	2	13	0	2	2	4	2	6
第3分科会	1	4	5	5	3	8	0	3	3	4	6	10
計	9	5	14	27	6	33	2	5	7	11	12	23

- ・全体では、宮城の将来ビジョンについては5政策6施策（23%）、震災復興計画については5政策12施策（57%）を書面審議とした。
- ・第1分科会では、宮城の将来ビジョンについては1施策（6%）、震災復興計画については4施策（44%）を書面審議とした。
- ・第2分科会では、宮城の将来ビジョンについては1政策2施策（18%）、震災復興計画については2政策2施策（50%）を書面審議とした。
- ・第3分科会では、宮城の将来ビジョンについては4政策3施策（54%）、震災復興計画については3政策6施策（69%）を書面審議とした。